



今年度から3歳以上児クラスを異年齢で構成しました。保護者の皆さんは、どのようにご覧になっているのか気になっています。1年間の振り返りとして異年齢保育の感想(保育参加)をご紹介します。

《あお組年少児》

一年に一度の保育参加とても楽しみにしていました。芋掘りがある日に一緒にやりたいと思い、芋掘りの日を選びました。みんなで一齐に芋の弦を引っ張り、中から芋が出てくると大興奮でみんな一緒にワイワイとても楽しかったです。今年からは異年齢児クラスという事もあり、どのように過ごしているのか不安なところもありましたが、お部屋で自由に遊ぶ時間も年少、年中、年長関係なく一緒に遊んでいて安心しました。またうちの子が年中になった時に次は自分が年少の子達の面倒を見る立場になるので、その姿が見られるのが楽しみです。

《きいろ組年中児》

異年齢保育が始まり、どのような過ごし方をしているのかなと思い、興味もあり参加しました。運動会の練習の日でしたので、普段の生活とは違う環境だったようですが、練習が始まる前はクラスの中で年少～年長までと一緒に遊んだり、思い思いに過ごしたりしている中で、年少の子が困っていたり、少し間違えたりしているのを年中、年長の子が見てくれて「こうするんだよ」などと言っているのが印象的でした。年齢が違うことで優しくなれたり、頑張ろうと思ったりする面があり、みんなにとってはいい環境なのかなと思いました。まだ始まったばかりではあると思いますが、個人的には続けてほしい取り組みです。一人一人の考える力が育つなど、良い点が多いと感じました。次の機会があれば普段の様子も見たいと思いました。

《みどり組年長児》

「これで最後の保育参加だ」と、いろいろな思いを胸に参加させていただきました。下に兄妹のいないうちの子。下の学年の子との接し方はとてもお兄さんに見えて感動でした。お昼には、話が合う同学年で集まれば、わいわいがやがや気心知れた仲間で楽しい給食の時間で、まるで仕事中の昼休憩をしているように見え、私も子どもに負けず頑張ろうと思いました。縦割りの保育園生活は、人見知りのうちの子にとっても良い経験になっていると思います。この経験を生かし視野の広い、気配りのできる大人になってほしいと願います。

今年度は、年中・年少の子どもたちと一緒に過ごしたクラスから卒園していく初めての年になります。このことを大切に考え、心に残る卒園までの日々を過ごし、当日を迎えたいと思っています。もう一つ、現在、保護者有志の皆さんが土・日曜日に都合のつく方が集まり、ピザ窯、ロケットストーブを造ってくださっています。卒園する年長児がピザを焼き、食べられるように今月中に完成する予定です。年長児がどんな表情で作り、食べるかとても楽しみです。ありがとう。 園長 平野弘和

